

自ら新聞を通して、社会とより広い視野でつながることに
喜びや感動を味わわせることができる NIE 教育のあり方

指定校 1 年次 原村立原中学校 竹内 紀美江
青沼 健二 鹿川 和哉

I 本校新聞活用 (NIE) の実態

(1) 新聞によせての実態(平成25年10月)

夏休みの課題として社会科で「新聞スクラップ」を実施した。「新聞スクラップ」指導から、新聞をとっている家庭や利用している家庭の状況を知る必要を感じた。

(アンケートから)

- ① ニュースを知るために利用しているもの …… テレビ 60 % 新聞 24 %
- ② 新聞を取っている家庭 …… 85 %
- ③ 家族は新聞を読む …… 83 %
- ④ 生徒は新聞を読む …… 60 % 内容 (テレビ・スポーツ・地域・政治)
- ⑤ 生徒が新聞を読むとき …… 暇なとき、大きな事件があったとき、調べ学習

生徒は生活の中で新聞に目を通してしている。しかし、紙面の構成や見出しの効果についての知識は少ない。生徒の作る行事新聞からも、このことがうかがわれる。教科書には、新聞の構成や記事についての扱いがあるが、生徒の関心は高くない。また、学びの姿で紙面から多くの情報を知ろうとか、社会のことを知って実生活に結びつけようという姿勢には欠ける。ここで、新聞の利用や利点を学ぶことで、世の中の動きを知りたいという気持ちや考えていこうという姿勢を育てていく。

II 実践のねらい(育てたい力)

(1) 育てる意識

…中学生は、小学生と違い、自分のことだけ考えていればいいのではありません。中学生は社会を知り、社会とつながる存在でなくてははいけません。…』 (始業式 校長講話より)

- 社会を知り、社会とつながる存在であるための一つの大きなツールとして新聞があげられる。
- ・新聞が学校の中にあり、生徒や教師の共通の話題に上り、学校内のあちこちで共鳴が起こるような環境を作る。
- ・新聞を通して地域や生きる今を知り、社会とつながり将来へと生きる豊かな力を養う。

(2) つける力

- ①受信するようになる。(校内に提供されたものを読む)
 - ・日々の出来事が、どのような形式でどのように書かれているか知る。
 - ・新聞に書かれている内容を、各新聞社による比較をし違いを考える。
- ②発信するようになる。(校内に提供されたものの感想を書く)
 - ・新聞記事を理解し、書かれている内容に意見を持ち、発表し合う。
 - ・新聞という形式を理解し、自分の調べた内容や経験や情報を発信できる。

Ⅲ 研究の概要(授業実践)

1 新聞の提供状況

新聞は、生徒の多くが利用する図書館前の廊下に書見台を設置し、興味を持った誰もが自由に読めるようにおいた。授業等で活用できるように棚に整理し、新聞記事スクラップもできるようにした。

2 新聞利用の取り組み

(1) 授業における活用

①国語科

- ・「意見文を書こう」 信毎建設標 10代からを読み意見に意見を付ける学習。
- ・「コピーの効果」 新聞の気になる見出しを集め、見出しの効果を考える。
- ・「新聞を学ぶ」 新聞の構成・記事やリード文等について知る。
- ・「コラムの書き取り」 季節の言葉や慣用句等言葉に関心を持つ。

②社会科

- ・信濃毎日新聞学習シートの活用
- ・公民 経済「株価の変化から企業の役割と意義を学ぶ」
- ・新聞スクラップ作り

③総合の時間の学習

- ・「行事新聞を作ろう」 1・2年生が新聞作りについて、割り付けや見出しについて講師から学ぶ。
- ・1年生は「農業体験新聞」 2年生「登山新聞」を作る。



信毎読者センター山寄先生による
「新聞作り」出前授業



(2) 環境作り

「生徒の周りに新聞を」を合い言葉に環境作りを行った。

①新聞記事紹介コーナーや新聞のための書見台設置



←階段踊り場



←図書館前

②お昼の放送での「気になる新聞記事」の紹介

以上のように、手の届く場所に新聞を置くことや学校生活の中で新聞を活用することを行った。

3 学習指導案

(1) 単元名 「原小6年生に原中学校を紹介しよう」

(2) 単元目標

- ①新入生と保護者に対する中学校紹介の発表計画を立て、相手意識をもった発表の仕方や資料の選定を友とのかかわりを深めながら進めることができる。
- ②中学校のよさや、中学校という組織の一員ということを理解し、中学校という組織の概要や、後輩に対する上級生としてのあり方を考えることができる。
- ③新聞や講師に学んだ効果的な写真や見出しを工夫し、分かりやすい発表が追究できる。

(3) 単元設定の理由

本校の1学年の生徒は、明朗活発な生徒が多い。その一方で、相手意識が薄く、自分から考え、工夫し、正確で分かりやすい発表や自己表現を苦手とする生徒も多い。

自己表現を苦手とする生徒たちの多くは、発表を通しての言語活動の経験が少ないと思われる。意図的に発表の機会を設定しているが、与えられた原稿を読むだけの活動では、自分なりの思いや意図を持つこと、さらには、相手を意識することは難しい。本校では、一年次一学期の農業体験から三年次の卒業論文まで、地域に学び、自分の学びを発信する学習を実施している。しかし、三年間の学びを通して、相手に自らの体験を端的にまとめ効果的に伝える方法や表現が十分に身につけていない。

本年度、本校はN I E指定校となった。日々掲示される新聞や、新聞の作り方・新聞の紙面を学ぶことを通して、新聞における写真の効果に気づいた。そこで、小中学校説明会に参加する小学生やその保護者に向け、説明をわかりやすくし、自分なりの思いや意図を表現するには視覚的に分かりやすい写真を用い、そこに見出しをつけ、プレゼンテーションを作成・利用することを通して相手を意識した発表ができると考え本単元を設定した。

(4) 単元展開の構想

	学習活動	学習活動の具体 (○) と 教師の支援 (◎)	評価
1	○原中紹介プレゼン台本作り ○各分担で台本作り	○「教科」「生徒会」「行事」「生活」「部活動」について、紹介冊子をもとに、写真つきプレゼンを行う計画を立てる。 ・各パートリーダーが内容の立案、吟味を行う。 ①各項目毎に ②何を紹介するか ③台本・写真の検討。 ・分かりやすい説明には、写真があるほうが良いことに気づく。 ◎ 小学校と中学校の「違い」をはっきりさせる。「違い」をキーワードに台本作りをするように支援。	・発表の形態や設定が考えられる。
2	○台本に合う写真検討	○ 見出しと、それに付く写真場面を考える。 ・仮選択 ・必要な写真撮影を計画し、撮影。 ○ 取材カードを使って、仮見出しをつける。 ◎ 「違い」について、書き出してみる。 ・短い言葉で、表現を考える。 ・感想をつける。	・分かりやすい発表方法を考えられる。
3	○写真に見出しを付ける	○ 写真に合う見出しを工夫しよう ・写真で伝えたいことは何だろう。 ・説明でいいのだろうか。 ◎ 新聞の見出しを見てみよう。 ・1日分の新聞から気になる見出しをいくつか切り抜き、見出しの役割を再確認する。 ・友だちに自分の意図を説明する。 ◎ 見出しとは、何を伝えたいものなのか助言する。	・小学生への思いが寄せられているか。
4	○写真の効果を学ぶ 講師による指導	○ 写真の効果を知る。 ・写真について学ぶ・・・同じ題材でもこんなに違う。 ・意図が分かる。 ◎ 講師による支援 ・「写真」を撮った根拠が説明できること。 ・写真で言いたいことを見せる。 ・相手は何を知りたいかを考える。(相手意識)	・よりよい写真選択の方法が分かり、自分の発表を見返そうとしている。
5 本 時	○写真の再検討	○ 講師から教えてもらった観点で、自分たちが選んだ写真を検討しあう。 ・意図が伝わる ・気持ちが伝わる ・様子が分かる ◎ 1枚の写真について全体で考え合う。	・小学6年生に分かりやすく伝えるための写

		<ul style="list-style-type: none"> ○ その写真を選んだ理由を説明する。 ・ 写真が「違い」の説明にふさわしいか検討する。 ・ 互いに意見を出し合う。 ◎ 写真選択の意図を、他の班の人に分かってもらえるように説明させる。 	<p>真の撮り方を友との意見交流の中で考える事ができたか。</p>
6	○プレゼンの練習	<ul style="list-style-type: none"> ○ 再選択した写真に見出しをつけ、発表の練習をする。 ・ 写真に、流れを考え、構成を工夫する。 ・ 小学生のことを考え、聞きやすい発表を心がける。 ◎ 自信を持って発表させる。 ・ 司会者を中心に進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝える方法を工夫し、自分の発表に自信が持てる。

(5) 本時案

①主眼

自分たちが伝えたい小学校との違いを考えた生徒が、発表に使う写真を考え合う場面で、どうしてその写真を選んだのかという理由を友と検討しあうことを通して、小学6年生により分かりやすく伝えるための写真の撮り方を考えることができる。

②本時の位置 全6時間中第5時

前時：写真の効果を学ぶ（講師による指導） 次時：プレゼンの練習

(6) 展開

	生徒の活動	指導・助言
1、導入 前時の振り返り	<p>1、新聞記者に写真の撮り方について指摘されたことを思い出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人物をうつすときは、表情が分かるようにした方がよい。 ・ 写真を撮る高さでイメージが変わる。 ・ 物を入れることで分かりやすく伝えることもできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の写真の学習を想起させるために、前時学んだことをまとめた模造紙や前時に記者に紹介してもらった写真を貼る。 <div style="text-align: right; vertical-align: middle;">5</div> 
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p><学習問題> 見出しにふさわしい写真を選ぼう</p> </div>	

2、一枚の写真『休み時間の楽しみ』について考える。
(全体で)

2、学校生活のグループが撮影した『休み時間の楽しみ』という写真について考える。



・顔が写っていないから楽しそうに見えない

・学校生活グループがあらかじめ撮っておいた写真1枚を取り扱い、実際に本番と同様に発表させる。

・発表後、写真がふさわしいか問いかける。

5

<学習課題> 写真を選んだ理由を説明しよう

3、グループの発表用写真について考える。

3、自分たちが選択した写真がふさわしいかどうかを各グループごとに考える。



- 見出しと写真があっているか。
- 小中のちがいが写真から伝わるか。
- 中学校生活の楽しさが伝わるか。
- ・表情が分かるように下から撮影した方がいいな。
- ・ノートだけじゃくて、手も写すと学習している感じが伝わるんじゃないかな。
- ・バスケットゴールをねらってシュートしている所を撮りたいから、高い場所から撮るのがいいかもしれない。



・ワークシートを配布する。
・発表内容別の計9グループに分かれて話し合うように伝える。

- ・左の○の3観点に沿って写真を検討するように適宜机間巡視で適宜指導する。
- ・自分たちの写真の改善点をホワイトボードに記入するように指示する。
- ・書き出した改善点を元にして、理由を文章で書くように伝える。
- ・行事のグループは写真の撮り直しができないため、あらかじめ用意しておいた写真の中から必要であれば写真を選び直す。
- ・3～4グループに実際に

15

<p>4、発表の準備をする。</p>	<p>4、発表するための説明練習をする。 ※行事のグループのみ模造紙に自分たちが選択した写真を仮止めをする。</p>	<p>全体の前で理由を説明するように促す。</p> <p style="text-align: right;">10</p>
<p>5、写真について説明する。</p>	<p>5、自分たちの写真の意図を説明する。</p>	<p style="text-align: right;">10</p>
<p>6、本時をふりかえる。</p>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><評価> 小学 6 年生に分かりやすく伝えるための写真の撮り方を友との意見交流の中で考えることができたか。</p> </div> <p style="text-align: right;">5</p>

IV 研究のまとめ

- 1 本年度は新聞がどのように利用できるか、考えられることに取り組んだ。朝、校舎に入ったときから新聞や記事が目に入るようにした。校内に掲示された新聞コーナーや放送による記事の紹介、各教科の授業における扱い等、身近なところに新聞がある生活に、生徒の興味や関心は高まってきているように感じる。
- 2 「新聞利用」は、新聞を読むだけでなく、自分たちが発信者になるときに見出しの付け方や写真の扱い方の参考になることも学べた。新聞を構成する要素は、記事だけでなく見出しや写真がいかに大切かを学ぶことができた。「小学 6 年生への説明会」は、中学 1 年生が情報の発信者となった。聞き手や読み手という受信者に対して、「分かりやすいこと」とは、どのようにすればいいか、新聞を通じて具体的に考えることができた。新聞の構成・写真の持つ意味、制作者の思いや具体的な手法を「カメラマン」との出会い

いから、実感的に学ぶことができた。そこから「相手意識」の大切さが分かり、発表会等に生かすことができた。

- 3 「社会を学び、社会とつながる」ためには、学習題材の利用を工夫する必要がある。新聞や記事を教師が比較検討しなくてはならない。

V 次年度に向けて

- 1 事実を正確に知る、比較する、考えを持つ、発信する・・・、教科や学年で使える新聞活用のあり方を検討し、実践へとつなげていく具体的な場を作ることとする。
- 2 全職員がNIE教育に関わっていくという体制づくりで推進してきたが、係として先生方の授業や活用等に現れていたか捉えが不十分であったと言える。授業や短学活等で扱ったことを計画的に紹介し合ったり、気軽に授業公開できるようにする等、係が主導し、検討していくことが必要である。
- 3 校内各所に新聞記事を読めるように配置した。生徒が足を止めて読んだり、記事に付箋を貼るコーナーでは、何枚も付箋が貼りつけられたりするようになってきた。しかし、この環境づくりが果たして個々の生徒にとり、どう働いたか、意味のあるものであったか等の見とどけ(検証)が不十分であったと言える。個々の生徒への利用状況の聞き取り調査や職員による定期観察等の手法を通して、的確な実態把握と力としてついた具体的な事実の見極め・評価・・・こうした PDCA 的な取り組みを次年度は係が主導し実践していきたいと考えている。